



前橋市街を練り歩くチンドン屋さん



うまやばしちんどんくらぶ

昨年 11 月、前橋市内で第 9 回全国アマチュアちんどん競演会が開催されました。チンドン屋さんの行列を見たのははるか昔のこと。いまだきチンドン屋さんが活躍する機会があるのだろうか？競演会とはどんなもの？という好奇心にひかれてのぞきに行ってみました。会場には“チャンキチャンキチャンキチキ”という懐かしい音が響き、面白おかしく化粧をほどこした顔が観客の拍手喝さいを浴びている。おひねりも投げられて、タイムスリップしたような感覚に陥る。参加しているのは関東・東北・東海から集まった 10 チーム。早稲田大学や県立館林商工高校の女子生徒のチームも参加している。競演会のクライマックスで最優秀賞に輝いたのはなんと女子高生チームでした。

今回の“はじめまして”に登場してもらうのはこの競演会を主催した地元前橋の「厩橋 CHINDON 倶楽部」。活動のまとめ役である北原雄一郎さんを、ご本人が経営する喫茶店「こまち」に訪ねました。

なんでまたチンドン？

私たち、前橋馬場川通り親交会の空き店舗対策事業として、元料亭を改装して貸し室と貸しギャラリーの運営を始めたのがきっかけ。オープン 2 年目の平成 14 年の秋、地元で営業していたアタリヤ演芸宣伝社というチンドン屋さんの堀口さんを教授に招いて「チンドン大学」を開校したんです。町の活性化がねらいでした。40 人の応募者の中から無作為に 20 名を選んで始めましたが、みなさん何も分からない人ばかり。道具もない知識もない。太鼓作り、化粧、着付け、練り歩き、口上、演奏など一から始めました。道路の使用許可申請方法も。



喫茶店のマスターが本業の北原さん

二ヶ月後にはチンドン大学卒業生により「厩橋 CHINDON 倶楽部」が結成され、イベントのチラシ配り、各種祝いやパレードでのパフォーマンスに登場し、新聞やテレビでも紹介されました。

その後、練習会場を私の店、前橋プラザ元
気21と移動し、毎週水曜日の夜、練習して
います。

メンバーはどんな人？

現在のメンバーは19歳から82歳までの
21人。市内在住者が多いけれど、県外から
参加している人もいます。職業は様々。共通し
ていることはチンドンが何よりも好きという
こと。

横浜から通ってくるTさんは三味線のお
師匠さんで、たまたまNHKの放送を見て私
のところへ電話をしてくれて入部しました。今
では倶楽部に欠かせない貴重なメンバーです。
80歳を超えています。年とともに輝きを増
していますよ。

Fさんは高校の先生。けれど、演奏してい
るときはチンドンマンになり切っている。



北原さんとTさん

Fさんは高校教師

何が楽しいですか？

街にお客さんが集まってくれることが大切
な目的ですけどチンドンには別の不思議な魅
力がありますよ。老人施設や病院に慰問に行
くことがあります。特にお年寄りには特別な
思いで演奏を楽しんでくれるんです。「もう一
度聴けるとは思わなかった」と感激する人も
いましたよ。私の想像ですがチンドンの練り
歩きを見た遠い昔を思い出しているのではな
いでしょうか。そこではたぶん、お父さんお

母さんが両脇にいて自分の手をしっかりと握
ってくれているのだと思いますよ。



館商工の生徒達の活躍は？

今回の競演会で最優秀に輝いた県立館林商
工高校の「館商工Weラブちンドン」の演奏
は技術的にも立派だし何よりお客さんの評価
が高かった。文句なしの最優秀賞でした。

昨年度の生徒さんたちが厩橋チンドン倶楽
部の門を叩いた。学校が終わってから前橋ま
で練習にやってくるのは大変なことですよ。
生徒さんたちもよく頑張りましたが、応援す
る先生方の努力にも感心します。なんととい
っても後輩に引き継いでくれたことがうれしい。
今後の活躍を祈ります。



2012年開催の横断幕を掲げる館商工チーム

取材を終えて

人の心に響くチンドンの音の奥深さを感じ
ました。仕事の合間を縫ってインタビューに
応じてくださった北原さんに感謝します。

【取材・カット：倉林順一・ 写真と千社札提供：
北原雄一郎氏】